

## 標準委員会 第41回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日時 2018年11月26日(月) 13:30~15:40
2. 場所 5東洋海事ビル A+B会議室
3. 出席者(敬称略)
  - (出席委員) 萩原(部会長), 堺(幹事), 石川, 伊藤, 北島, 坂本, 佐々木, 佐田, 田中(健), 田中(正), 張, 日比, 平野, 宮坂(14名)
  - (代理委員) 佐藤郁也(三菱総合研究所/松本代理), 小野綾子(日本原子力研究開発機構/吉田代理)(2名)
  - (欠席委員) 岡本, 木藤, 増田(3名)
  - (委員候補) なし
  - (説明者) 【風洞実験実施基準分科会】伊藤幹事、【廃止措置分科会】田中(健)幹事、【基盤応用・廃炉技術専門部会】堺幹事、日比委員(4名)
  - (事務局) 中越, 田老, 皆月(3名)

### 4. 配付資料

- ATC41-0 議事次第
- ATC41-1 前回議事録(案)
- ATC41-2 人事について
- ATC41-3 「有効高さ評価モデル分科会」の廃止および「風洞実験実施基準分科会」への統合について(理由書)
- ATC41-4 「原子力施設の廃止措置の基本安全原則:20XX」の新規制定(策定状況報告資料)
- ATC41-5 「実用発電用原子炉施設等の廃止措置の計画:20XX」の改訂(中間報告資料)
- ATC41-6 「実用発電用原子炉施設等の廃止措置計画時安全評価実施基準:20XX」の新規制定(中間報告資料)
- ATC41-7 分科会の活動状況について
- ATC41-8-1 【依頼】標準委員会との連絡責任者の選任について
- ATC41-8-2 学会内の部会等との連絡責任者リスト
- ATC41-8-3 SG-105 標準策定5カ年計画の更新ガイドライン
- ATC41-8-4 新知見のスクリーニング基準案
- ATC41-8-5 新知見 WG\_システム安全のスクリーニング基準(案)
- ATC41-8-6 新知見のスクリーニング基準案
- ATC41-9-1 専門部会運営通則の廃止、専門部会運営細則の新設について
- ATC41-9-2 専門部会運営通則の廃止
- ATC41-9-3 専門部会運営細則(現 専門部会運営通則)の新旧比較について
- ATC41-10-1 標準委員会の標準策定5カ年計画の更新について
- ATC41-10-2 基盤応用・廃炉技術専門部会倫理教育実施状況

### 参考資料

- ATC41-参考1 基盤応用・廃炉技術専門部会委員名簿
- ATC41-参考2 基盤応用・廃炉技術専門部会出席実績

## 5. 議事内容

事務局から開始時点で委員19名中、16名の出席があり、委員会成立に必要な委員数（13名以上）を満足している旨、報告があった。

### (1) 前回議事録（案）の確認（ATC41-1）

「分科会の活動状況」の部分について、記載内容の重複があることから訂正した版で承認することとなった。

### (2) 【報告・審議】「有効高さ評価モデル分科会」の廃止および「風洞実験実施基準分科会」への統合について（ATC41-3）

（担当：伊藤委員）

伊藤委員から、「有効高さ評価モデル分科会」を廃止し、「風洞実験実施基準分科会」へ統合すること及び、分科会の名称を「放出源の有効高さ評価分科会」へ変更することが提案された。審議の結果、「風洞実験実施基準分科会」へ統合し、名称を「放出源の有効高さ評価分科会」へ変更することが決議された。

### (3) 人事について（ATC41-2）

事務局からATC41-2に基づき、専門部会及び分科会の人事について下記の提案があり、専門部会委員の退任等が確認され、審議の結果、専門部会委員の選任等が決議された。

また、萩原部会長の任期が2019年2月であることから、基盤応用・廃炉技術専門部会長の選任投票が行われた結果、萩原委員15票、堺委員1票となり、投票総数16票の過半数（8票）を得たため、萩原委員が引き続き基盤応用・廃炉技術専門部会長に選出された。

#### 1) 専門部会

- ① 委員退任の確認  
なし
- ② 委員の選任決議  
なし
- ③ 委員の再任決議  
北島 庄一（電力中央研究所）
- ④ 部会長の選任決議  
萩原 剛（東芝）
- ⑤ 常時参加者登録解除の確認  
なし
- ⑥ 常時参加者登録の承認決議  
なし

#### 2) 分科会

- ① 副主査（幹事）退任の確認  
【遮蔽分科会】  
幹事 平尾 好弘（海上技術安全研究所）
- ② 副主査（幹事）指名の確認

【遮蔽分科会】

幹事 奥野 功一（株式会社安藤・間）

③ 委員退任の確認

【シミュレーションの信頼性分科会】

深堀 智生（日本原子力研究開発機構）

【有効高さ評価モデル分科会】

分科会の廃止に伴い、委員全員退任

北林 興二（工学院大学）  
山澤 弘実（名古屋大学）  
市川 陽一（龍谷大学）  
近藤 裕昭（日本気象協会）  
筑紫 文夫（日本気象協会）  
佐田 幸一（電力中央研究所）  
本間 俊充（日本原子力研究開発機構）  
永井 晴康（日本原子力研究開発機構）  
河合 理文（IHI）  
福田 寿（伊藤忠テクノソリューションズ）  
鈴木 政時（日本エヌ・ユー・エス）  
大場 良二（三菱重工業）  
安田 智美（関西電力）  
青木 伯夫（東京電力HD）  
沼田 邦夫（日本原子力発電）

④ 委員選任の承認決議

【シミュレーションの信頼性分科会】

川西 智弘（日本原子力研究開発機構）

⑤ 常時参加者登録解除の確認

【有効高さ評価モデル分科会】

分科会の廃止に伴い、常時参加者全員解除

日高 昭秀（内閣府）  
野澤 正幸（東京電力HD）  
道岡 武信（電力中央研究所）  
館野 徹（原子力規制庁）

(4) 【報告・審議】 「原子力施設の廃止措置の基本安全原則」、「実用発電用原子炉施設等の廃止措置の計画」の改定、「計画時安全評価実施基準」中間報告（ATC41-4、5、6）

田中（健）委員から、「原子力施設の廃止措置の基本安全原則」の制定、「実用発電用原子炉施設等の廃止措置の計画」の改定、「計画時安全評価実施基準」の制定の中間報告について説明があった。本件については、前回中間報告時の懸案事項であった「原子力施設の廃止措置の基本安全原則」の位置づけに関する回答とする。廃止措置分科会では、「原子力施設の廃止措置の基本安全原則」を技術レポートではなく標準として制定し、他の標準から参照されるものと位置付けることに方針変更を行った。なお、これら標準の原文に関しては、今後専門部会における条文全文に関する検討の上、標準委員会で中間報告することが決議された。

- (5) **【報告】** 分科会の活動状況について (ATC41-7)  
各分科会の代表者から活動状況について報告があった。  
主な質疑は以下。  
Q:放射線遮蔽分科会主催で開催予定の「放射線遮蔽設計に係るワークショップ」については5ヶ年計画に記載されておらず、また内容が標準委員会主催とは言い難い。  
A:共催を依頼している放射線工学部会に主催していただき、分科会は共催の方向で調整する。
- (6) **【報告】** 標準策定5ヶ年計画の更新ガイドラインの改定案について (ATC41-8-1~8-6)  
日比委員から、標準策定5ヶ年計画の更新ガイドラインの改定案、新知見のスクリーニングについて説明があった。  
主な質疑は以下。  
Q:スクリーニング基準(案)が3案示されており、統一する方向で検討してほしい旨、本専門部会からコメントしたがどのようになっているか。  
A:評価WGの主査からは、基戦タスクでは特段の反対意見はなかったと聞いている。  
配布資料は10/31の会合でのコメントを反映し、各専門部会での協議用として準備したものである。4つの専門部会で統一したスクリーニング基準となるよう2段階スクリーニングを採用する等で、統一基準を設定する方向で検討している。
- (7) **【報告・審議】** 専門部会運営通則の廃止について (専門部会運営通則の廃止、専門部会運営細則の新設) (ATC41-9-1~9-3)  
堺幹事から、「専門部会運営通則の廃止について」、「専門部会運営細則の新設」について説明があった。「専門部会運営通則」については廃止することが決議された。  
主な質疑は以下。  
Q:棄権した無効票も投票総数に入れるべきか。棄権は投票を実施したことになるのか。  
A:棄権も投票の意思表示のひとつの選択肢であり、投票総数に含まれる。また、委員数の4/5が投票の成立条件になっており、その観点からも投票総数に含める必要がある。
- (8) **【報告】** 5か年計画の改定について、倫理教育状況について  
堺幹事から、「5か年計画」作成の依頼があった。各分科会においてガイドラインに沿って作成し、期限までに堺へ送付するよう依頼があった。特に、ワークショップ等の標準委員会組織としての活動になる可能性がある行事は必ず記入するように依頼があった。また、倫理教育の実施状況について確認と報告があった。

## 6. 今後の予定

今回は、2019年2月25日(月)13:30から

以上